図1 ACP支援チームの構造(相互に連携し支援する)



図2 施設内での仕組みつくりの手順・ポイント

手順

内容

ポイント

組織の価値の明確化



現状分析・課題検討



手順作成・周知・教育



日常的な支援・教育



評価・教育の連続性

●施設の目指す医療ケアについて再確認し、ACP支援に ついての考え方、方針について明確にする。

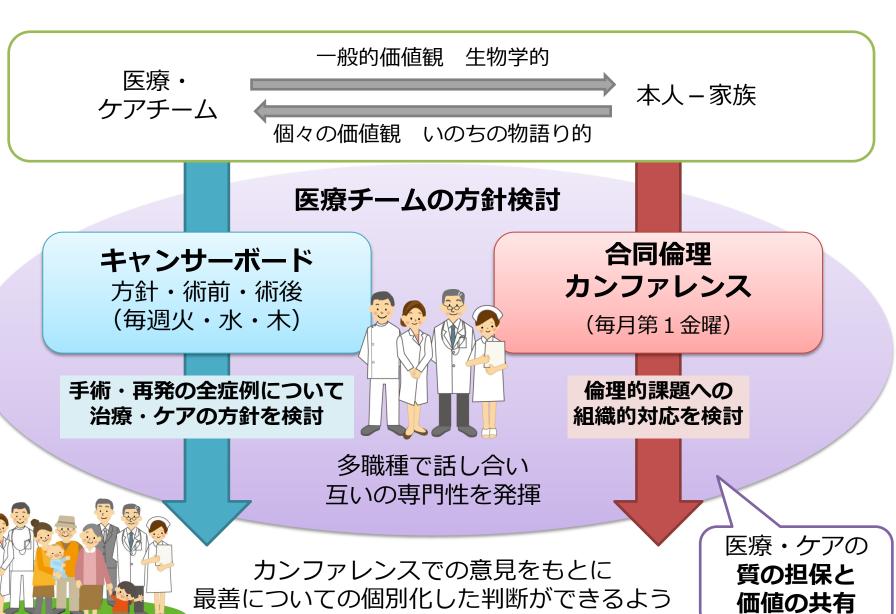
●コアになる医師・看護師間の相互理解を深め方針策定

●ACP支援に関わる医療・ケアの提供状況の調査分析

- ●取り組むべき課題の明確化と何から取り組むか検討
- ●取り組みの為のプロジェクトチームによる手順検討
- ●チームは現場の声を聴き、可能性を探り手順化する
- ●対象特性を考慮した手順の作成(介入時期・進め方)
- ●手順の具体的な説明・単位毎の周知
- ●SDM/喪失・予期悲嘆等へのケア/倫理的課題と対応
- ●情報を共有し、継続的な支援を行い経過を確認・共有
- ●日々の診療・ケアの場での患者の反応への対応支援
- ●各部署・各職種による対応特性と教育/コミュニケーションの質向上
- ●定期的に実施状況について評価
- ●成果を共有し、明確化された課題について修正・教育

- ●必要な事例への支援から
- ●関心の高いスタッフから
- ●経過を多職種で共有
- ●日常診療での意思決定支援・人生の最終段階の医療ケアの現状把握から
- ●カルテで仕組みを共有
- ●成功事例の共有・賞賛
- ●困難事例の検討・共有
- ●事例から教材化
- ●日常の診療・ケアでの SDMの実践
- ●気がかりは多職種検討で
- ●何ができて何が課題か
- ●体制を見直し再構築

図3 当院における多職種ACP支援の共有・評価(教育)



患者・家族・担当医療チームで話し合う